



Title	アイヌ語の復興とアイヌ語研究
Author(s)	佐藤, 知己
Relation	アイヌ研究の現在と未来 : 第1部. 平成20年6月29日. 札幌市
Issue Date	2008-06-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34407
Type	lecture
File Information	28-3-1.pdf, 要旨



アイヌ語の復興とアイヌ語研究

佐藤 知己

北海道大学大学院文学研究科 准教授

1. アイヌ語研究の歩みとアイヌ語研究の現在

アイヌ語の研究は明治末に金田一京助が研究を開始して学問的なアイヌ語研究の基礎を築いて以来、その弟子の知里真志保の努力によってさらに発展させられ、その後も、服部四郎、浅井亨、田村すず子、村崎恭子、K. Refsing、切替英雄、中川裕、奥田統己のような優れた研究者が次々に現れて種々の研究を行い、アイヌ語に関する知見の蓄積に努めてきた長い歴史を有する。本発表では、このような研究の歩みをアイヌ語の音韻や文法に関する具体的ないくつかの問題の取り扱いを通して簡単にたどった上で、アイヌ語研究が抱えている問題点と未来の可能性について述べる。

2. アイヌ語の復興とアイヌ語研究

アイヌ語研究は歴史学、考古学のような他の研究分野に比べると一般の関心が低いのはある程度やむを得ないことと思うが、アイヌ文化の復興やアイヌ文化の普及にたずさわる人々からさえも、アイヌ語研究者の研究はわかりにくいとか、直接役立たないとか、必要度が低いとされて、幾分敬遠されがちであるように見受けられるのは残念である。本発表では、アイヌ語研究はアイヌ語の復興と無縁でないばかりか、今後、ますます重要となる、ということをいくつかの具体的な例を通して述べたい。特に、アイヌ語の復興において必要となると思われる新語の形成の問題や、命令や疑問といった、日常会話において必要不可欠である基礎的な表現の問題について触れて、それらの問題に対するアイヌ語研究の重要性を述べたい。他方、研究者の側も今後、多くの人達の意見に謙虚に耳を傾けて、社会的な要求に対しても積極的に応えて行く必要があると思われるが、今、このような点に関して、アイヌ語研究者が何をすべきか、また、そのための具体的な方策について、主として教材作成面と人材育成面の両面について私見を述べる。